

ニッポンハム食の未来財団 2019 年度第二期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	絵本「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクトⅡ
フリガナ	クリタ ヨウコ
申請者（代表者）氏名	栗田 洋子
団体名（正式名称）	団体名：食アレスマイルネット 申請者の役職・肩書など：代表

1. 活動結果要約

絵本「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクトⅡは、公益財団法人ニッポンハム食の未来財団のご協力をいただき、食アレスマイルネットが 47 都道府県立図書館と 47 都道府県庁等に食物アレルギー啓発絵本「ともくんのほいくえん」（監修：国立病院機構福岡病院名誉院長西間三馨先生）を贈呈することにより、患者の精神的負担を軽くし事故の起こりにくい社会の構築を目指すものです。お届けできた絵本の冊数は決して充分ではありませんが、絵本の全ページをニッポンハム食の未来財団の HP より PDF でご覧いただけるようになっております。すでに「ちいさい子どもたちに食物アレルギーのことを伝えるのは難しいと思いますが、こうした絵本を使うことで理解が広がると思います」との声は全国あちらこちらから届いてきております。まずは PDF をご覧ください。「子どもたちに読んであげたい！」そう思っただけであれば、絵本、そして PDF をご活用いただき、子どもたちに読んであげてください。伝えたい！と思ったださった人の生の声を通して絵本とふれあうことで子どもたちは人として大切な何かを感じとってくれると信じます。絵本「ともくんのほいくえん」「ピーナッツアレルギーのさあちゃん」が命を守るために、そして救うためにいま何が必要なのか、みつめ直すきっかけになってくれたらと願います。

一日も早く新型コロナウイルスが終息し、人々に普通の日常が戻ることを切に願います。

人々のために日々ご努力されている方々へ感謝します。

2. 活動目的

2015年12月アレルギー疾患対策基本法が施行された。2007年より絵本「ピーナッツアレルギーのさあちゃん」(手づくりの一冊、自費出版本、ポプラ社出版本)を持って食物アレルギー啓発活動を続けるなかで「関係ない」と思う方がいかに多いかを感じてきた。アレルギー疾患対策基本法の第7条の国民の責務を国民に浸透させることが大切と痛感している。地域格差が大きいことも感じてきたが、全国どこにいても正しい情報に繋がることのできるアレルギーポータルサイトが2018年10月公開された。使えるものがあることを国民にいかに知らせ、いかに活用してもらうかは、ひとつの大きな課題である。

信頼できる医療関係者に監修していただいた絵本「ともくんのほいくえん」を、公益財団法人ニッポンハム食の未来財団のご協力もいただき、全国47都道府県庁を通して贈呈しPDFの活用を呼びかけることで、意識を換える一歩とする。

贈呈した絵本と絵本の全ページが見られるPDFを全国広く読み聞かせ等で活用してもらい、患者の精神的負担を軽くし、事故の起こりにくい社会の構築に繋げていくことができれば、食物アレルギー患者の孤立を防ぐことにも繋がる。一人じゃないって思うことができれば、前を向くこともできる。

3. 活動方法

令和元年11月秋田県⇒青森県⇒岩手県⇒山形県⇒宮城県を行脚。県庁アレルギー担当課、教育庁、園担当課、県立図書館、主な市の市役所、病院等を回り、絵本「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクトⅡについて直接知らせ、必要かどうか伺った。同時に絵本のお話の後ページにも記載したアレルギー疾患対策基本法第7条国民の責務とアレルギーポータルサイトの存在を伝える。平成31年3月作成された「小児のアレルギー疾患保健指導の手引き」が広く活用できることも伝える。その後東京都庁、静岡県庁は訪問し庁内を回る。残る40道府県のアレルギー担当には電話連絡をし「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクトⅡ等について知らせる。大分県庁、宮崎県庁以外は一度ないしは何度か訪問しコンタクトがとれていたもので、それを頼りに連絡を入れたが、担当者が異動している県も多くそのやりとりには時間を要した。冊数としては全く足りないことが早くからわかっ

たので PDF でも絵本の全ページが見られることを伝え、各都道府県民の皆さまに絵本と PDF を生かしていただきたいとお願いし発送した。

より国民の皆さまに生かしていただける本を届けるため、監修を国立病院機構福岡病院名誉院長、日本アレルギー学会元理事長西間三馨先生にお願いした。絵本の表紙をめくってすぐに目に入ってくる西間先生の言葉に人を思う温かさが伝わってくる。

様々なやりとりを続けるなかで絵本を必要とする人が多いことを痛感。様々な工夫、多くの方の協力により贈呈本の印刷冊数を大幅に増やすこともできた。

47 都道府県庁への発送後に予定していた医療関係者への発送は、新型コロナウイルス感染拡大のため一旦断念。ご無事を願いながら時を待って発送することに決める。

4. 結果及び波及効果

令和 2 年 2 月 12 日公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 HP に贈呈絵本「ともくんのほいくえん」の PDF を公開。その情報を伝えていく。

令和 2 年 3 月上旬全 47 都道府県立図書館と 47 都道府県庁の担当者に、併せて 1,628 冊発送完了。その際文末の送り状とチラシを添えた。

届いてきた声から今回の絵本「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクトⅡ（絵本 PDF 公開、絵本贈呈）は意義のあるものとなったと考えられる。

実際に届いてきた声の一部紹介。

- ・ 贈呈していただいた気持ちを大切に、活用させていただきます。
- ・ 当課の一冊は課員全員に回覧し今後の業務に活用させていただきます。
- ・ 食物アレルギーのある児童生徒が多数在籍しています。そのため食育等の一環としてぜひ取り入れさせていただきます。
- ・ ともくんの給食のトレイの色がみんなと違うところが子どもたちにとって現実味があり、アレルギーのことがよくわかると思います。
- ・ 図書室に置いたり、教員が読み聞かせしたりして活用します。

- ・本市でも食物アレルギー対応については、研修を重ね誤食等の事故防止に努めているところで、市内の全保育施設へ PDF 資料を送信し、各保育所・認定こども園で活用していきたいと考えております。
- ・市町村等に周知を行うとともに、大切に活用させていただければと考えております。(不足分はデータのダウンロード等いただくよう、周知を行っております。)
- ・食物アレルギーをお持ちのお子様に安心して給食が食べられ、楽しい食事の時間になるよう努めていきたいと思っております。
- ・素晴らしい出来だと思っております。さっそく図書館に配架してもらい、読み聞かせにも活用させていただきます。本当にありがとうございます。
- ・子ども図書研究室があり、そこに配架され、主に大人に対して紹介されることとなります。保育園や幼稚園の先生なども閲覧しますので、活用いただけることと思っております。
- ・この絵本の温かさと、栗田さんのお心遣いがとても嬉しかったです。引き続き周りの子供たちのために頑張ろうと思えました。いろいろな意味での非常事態が続きますがお体をご自愛ください。

以下、贈呈絵本発送時に添えた送り状とチラシ。

食物アレルギー啓発絵本をぜひご活用ください。



ともくんのほいくえん

監修：西間三馨先生
国立病院機構福岡病院名誉院長
日本アレルギー学会元理事長

＊ 2月上旬(予定)～
ニッポンハム食の未来財団HPより
PDFが見られます。
https://www.mitsuzaidan.or.jp/public/download/2019_picturebook.pdf

＊ 2月下旬(予定)～3月
47都道府県立図書館等に贈呈

絵本「ともくんのほいくえん」
贈呈プロジェクトⅡ
協力：公益財団法人
ニッポンハム食の未来財団

重慶の食物アレルギーのさあちゃん
その体験を通し、何を気をつければよいのか
ヒントも描かれています。ポプラ社より出版



2月下旬(予定)～
明元舎より出版

みんなが笑顔で
いられますように・・・ 栗田洋子

食物アレルギー啓発絵本贈呈について

先に連絡させていただきました食物アレルギー啓発絵本「ともくんのほいくえん」が完成しました。贈呈させていただきます。

絵本「ともくんのほいくえん」贈呈プロジェクトは、公益財団法人ニッポンハム食の未来財団のご協力をいただき、食アレスマイルネットが47都道府県立図書館と47都道府県庁等に食物アレルギー啓発絵本を贈呈し、患者の精神的負担を軽くし事故の起こりにくい社会の構築を目指すものです。お届けできる絵本の冊数は決して充分ではありませんが、添付のチラシにありますアドレスより絵本の全ページはPDFでご覧いただけるようになっております。絵本とPDFを併用していただき広く都道府県民の皆さまに生かしていただくことが大切と考えます。

「ともくんのほいくえん」は、国立病院機構福岡病院名誉院長で日本アレルギー学会元理事長の西間三馨先生が監修していただき、温かいお言葉を添えていただいた絵本です。届いた本と、PDFで全ページ見られるという情報を、都道府県民の皆さまに生かしていただきますよう、何卒よろしくお願致します。

尚、配布されました配布先リスト(様式自由)をFAXかメールか郵送で食アレスマイルネットまでお知らせください。併せてお願いします。

新型コロナウイルスが終息し、一日でも早く日々の生活が戻りますように・・・

2020年 3月 食アレスマイルネット 栗田洋子




5. 今後の活動について

まだまだ食物アレルギー啓発絵本「ともくんのほいくえん」の存在を知らない方は多い。必要なところに使えるものがあることを一日も早く知ることが大切。今後も PDF と贈呈本の 1 冊の単価を下げるため同時に作った自費出版本を持ってコツコツ動き続ける。それによって食物アレルギーが特別なことではなく普通に受けとめてもらえる国となれば患者の精神的負担を軽減することに繋がると信じる。

まず新型コロナウイルスの状況を見ながら未配布となっている医療関係者への配布を完了させる。

これまで繋がってきたたくさんの方の関わりを大切にしながら、これまで関わることの少なかった学生にも伝えていきたい。

以上